

V 日本語・日本文化科目

日本語 1 A (Japanese 1A)

山元 啓史 教授 佐藤 礼子 准教授 吉沢 由香里 非常勤講師 0-1-0 1Q

留学生を対象とする。語彙、文法等を確認・整理しながら、日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。特に論文・レポートの書き方を学ぶ。論文・レポートのトピックは自分で仮説を立て、簡単な実験を行う。それにしたがって「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」「文献」の書式で記載する技術とルールを身につける。なお、日本語 1 B も継続して受講することを前提とする。

日本語 1 B (Japanese 1B)

山元 啓史 教授 佐藤 礼子 准教授 吉沢 由香里 非常勤講師 0-1-0 2Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。この科目においては作成した論文・レポートにもとづいて、それらを伝える技術を身につける。なお、日本語 1 A を受講していることを前提とする。

日本語 2 A (Japanese 2A)

山元 啓史 教授 佐藤 礼子 准教授 吉沢 由香里 非常勤講師 0-1-0 3Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。日本語 1 A では、論文・レポートの書き方を学んだが、とりわけ、その中でも難しい、根拠・理由を述べる方法について取り上げる。「自分の好きなもの（こと）」をどのように根拠・理由を示していくかを考え、具体的方法論を身につけていく。なお、日本語 2 B も継続して受講することを前提とする。

日本語 2 B (Japanese 2B)

山元 啓史 教授 佐藤 礼子 准教授 吉沢 由香里 非常勤講師 0-1-0 4Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。日本語 1 B では、論文・レポートの発表方法を学んだが、その中でも根拠や理由を述べる方法については、復習を兼ねて練習するとよい。「自分の好きなもの（こと）」を説明するためには、どのような述べ方、聞き手に伝える技術が必要かを考え、具体的方法論を身につけていく。なお、日本語 2 A を受講していることを前提とする。

日本語 3 A (Japanese 3A)

森田 淳子 准教授 小松 翠 講師 吉沢 由香里 非常勤講師 0-1-0 1Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。特に読書とそれを理解するための文化はどのように学ぶかについて重点的に学ぶ。特に日本語で書かれた長編の読み物を読破した経験を積むことにより、日本語を生きたことばとして柔軟に読みこなせるようにする。書籍を 2 冊選び、それを読み解くために必要な知識とは何かを考え、その知識の入手技術も身につける。なお、日本語 3 B も継続して受講することを前提とする。

日本語 3 B (Japanese 3B)

森田 淳子 准教授 小松 翠 講師 吉沢 由香里 非常勤講師 0-1-0 2Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。この科目では、前の学期で得た読書を元に、その読んだ内容を伝えずに、その本の魅力を、ミニポスターの形式で、他の留学生に伝える技術を養う。実際に書籍を2冊選び、それを読み、その内容を踏まえて、どの順番で、どのような表現で伝えればよいかを考え、実際にポスター発表を行う。なお、日本語 3 A を受講していることを前提とする。

日本語 4 A (Japanese 4A)

山元 啓史 教授 吉沢 由香里 非常勤講師 0-1-0 3Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。この科目は日本語学習の最終段階と位置づけ、これまでに起こってきた自分から発する日本語技能ではなく、他から発する情報とその場で要約し、結論を述べる技能を養う。具体的には、セミナーを開く技術とは何かを考え、セミナーの題材、セミナーの運び方、オーディエンスの役割などを実演しながら考え、その技術を身につける。なお、日本語 4 B も継続して受講することを前提とする。

日本語 4 B (Japanese 4B)

山元 啓史 教授 吉沢 由香里 非常勤講師 0-1-0 4Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。この科目では、クラスメートをオーディエンスとして、セミナーを開き、その話題提供者と司会者を演じる。「好きな（尊敬する）科学者」を1人選び、その科学者について調べ、話題を提供し、オーディエンス同士に質問し、議論に誘い、結論をまとめ述べて、セミナーを終了するまでの技術を身につける。なお、日本語 4 A を受講していることを前提とする。

日本文化演習：適応 (Japanese Culture : Adaptation)

佐藤 礼子 准教授 0-1-0 2Q

留学生を対象とする。異文化間コミュニケーションの概念と方法論を用いて、異なった言語や文化を持つ人々がともに生きるために必要な視点の獲得を目指す。講義に加え、グループワークやディスカッションを多く行うことで、獲得した知識が経験として身につくようにする。また、異なる背景や文化をもつ人々と対話する方法についての演習を通して、実践的なコミュニケーション能力を身につける。

日本文化演習：社会 (Japanese Culture : Society)

平川 八尋 准教授 0-1-0 3Q

留学生を対象とする。本講義では、グローバル化が進む日本をとりまく社会問題を取りあげる。格差社会の功罪、急速に進む少子高齢化、災害の巨大化をまねく地球温暖化、絆を破壊する地域社会の崩壊などが中心的テーマとなる。人間の幸福を阻むこれら諸問題を次世代を視野に入れ、社会や個人が取り組むべき方策（個人では姿勢）について考える。小グループによる意見交換から、自己の考えをまとめることをめざす。授業では適時ビデオ等の視聴も行う。

日本文化演習：芸術 (Japanese Culture : Arts)

森田 淳子 准教授 0-1-0 4Q

留学生を対象とする。芸術・文化の領域における基本的な知識を身につけ、多様な考え方を得た上で自分の考えを日本

語で発信する力を養う。題材は「話芸」「映画」「アニメ・マンガ」などを取り上げる。各回のテーマについて事前に考え、講義やディスカッションで知識や理解を深める。学期を通じて学び、考え、感じたことを総合的に振り返り各自でまとめ、コース最終回で発表する。

日本文化演習：日本学（Japanese Culture : Japanology）

山元 啓史 教授 0-1-0 1Q

留学生を対象とする。広く日本に関わる問題、政治・経済・社会・教育・芸術・文化を世界各国との比較を通して考える。テーマを自分で選び、自分の国との比較を行い、その類似性と異質性について具体的に調べる。来日以後、日頃感じている違いを具体的な根拠を示して説明することを学ぶ。日本学に関する論文を読み、関連学術分野における説明の仕方を学ぶ。後半では、プレゼンテーションを行い、クラスメートからの意見を参考に、最終レポートの執筆を行う。